

講演会「日本の子どもの文学—昨日・今日・それから」(2011/05/14)

「新しい児童文学の誕生と発展」

神宮輝夫

(※書名のあとの数字は刊行年)

はじめの数年間—クロスオーバー期

大人と子どもの読者へ

クロスオーバーとは、ここでは、大人の文学の作家が子どもの文学も創作することを意味している。

石井桃子『ノンちゃん雲に乗る』1947 北島八穂『マコチン』1950 竹山道雄『ビルマの豎琴』1948 木々高太郎『少年珊瑚島』1948 吉田弦二郎『童話集 小犬と小鳥』1948 壺井栄『母のない子と子のない母と』1951 打木村治『生きている山脈』1953

子どもの読者へ

平塚武二『にじが出た』1946 筒井敬介『少年記者プエル君』1947 岡本良雄『ある町の話』1947 青木茂『三太武勇伝』1948

子どもの文学の作家と作品が生まれる。

新しいメルヘン・ファンタジーのはじまり

松谷みよ子『貝になった子ども』1951 『ながいながいペンギンの話』1957 佐々木たづ『白い帽子の丘』1958 森のぶ子『サラサラ姫の物語』1958 小笹正子『ネーとなかま』1958 (1970 フレーベルで出版)

1960年 石井桃子ほか著『子どもと文学』(中央公論社)

1959年以降のファンタジー作品は別紙参照のこと

立原えりか『でかでか人とちびちび人』1961 あまんきみこ『車の色は空のいろ』1968 安房直子『まほうをかけられた舌』1971 『北風のわすれたハンカチ』1971 『風と木の歌』 今西祐行『きつねとかねのおと』1970

山元護久『ピストルをかまえろ』1970 舟崎克彦『トンカチと花将軍』1971 筒井敬介『かちかち山のすぐそばで』1972

新しいリアルな小説のはじまり

1953年 早大童話会『『少年文学』の旗の下に！』通称「少年文学宣言」を発表

リアリズムの長編小説の誕生は、1945年以後の子どもの文学の世界で、もっとも求められていたものだったが、その誕生にもクロスオーバーが顕著だった。

『平太の休日』1964の作者萩原一学は、戦前「文学界」、戦後は「新潮」などに作品を掲載した小説家。『雲の階段』1963の作者打木村治は戦前農民文学作家。『春の目玉』1963ほかの「目玉」シリーズを書いた福田清人は戦前は作家活動、戦後は大学の教師をつとめたりした大人の文学の作家。彼らは、小説家としてのその力を子どもの文学で発揮して、子どもをリアリスティックに描く小説を発表した。それぞれ、個性的な人物像、現実味のある物語の展開、生き方についての示唆など、落ち着いた魅力があって好評だったが、若い世代は、戦後社会を変えようとするテーマと意欲と物語性をもった作品を求めた。そういう作品についてもクロスオーバーがはっきりと見られる。

『夜あけ朝あけ』1954の作者住井すえは戦前無産婦人芸術連盟に所属した。『はだかっ子』1959の近藤健がもっとも生き生きと1950年代の少年をえがいていた。『キューポラのある街』1961は早船ちよの作品。彼女は、労働組合運動の中にいた人で、この作品にも先鋭的な労組から出てくる政治的宣伝扇動が顕著だった。

いずれにしても、社会主義に基盤を置く社会変革の思想があきらかな作品は、労働組合的文化運動の強い影響が感じられる。労働者の生活を中心としながら、それを免れているのは、山中恒の『赤毛のポチ』1960だろう。

伝統を基礎に、リアリスティックな分野を分厚く開拓したのは、『魔神の海』1969の前川康男、『浦上の旅人たち』1969の今西祐行、『教室二〇五号』1969や『街の赤ずきんたち』1977の大石真だろう。二〇五号までの大石のシリアスな作品には、リアルに物語のへりにつきあたって途方にくれている感じがつよく、『街の赤ずきんたち』でようやく新しい筋道を見つけた。そして、同じ年の斎藤隆介は『天の赤馬』1977で、目的を達した村人たちが新しい世界に向かって悠々と峠を越えていく姿を描いて、戦後的なリアリズムの限界を平然と超えてみせた。

作品リストⅠ

1954	だれも知らない小さな国	佐藤さとる
1954	木かげの家の小人たち	いぬいとみこ
1960	龍の子太郎	松谷みよ子
1961	ちびっこカムのぼうけん	神沢利子
1972	銀のほのおの国	神沢利子
1972	くらやみの谷の小人たち	いぬいとみこ
1972	冒険者たち	斎藤惇夫
1973	光車よ、まわれ!	天沢退二郎
1977	オレンジ党と黒い釜	天沢退二郎

作品リストⅡ

1988	空色勾玉	
1991	白鳥異伝	
1996	薄紅天女	
2005	風神秘抄	
	以上、荻原規子	
1991	月の森に、カミよ眠れ	
1996	精霊の守り人	
1999	闇の守り人	
2000	夢の守り人	
2001	虚空の旅人	
2003	狐笛のかなた	
	以上、上橋菜穂子	
1998	月神の統べる森で	
2000	地の掟 月のまなざし	
2001	天地のはざま	
2001	月冠の巫王	
2003	裔を継ぐ者	
	以上、たつみや章	